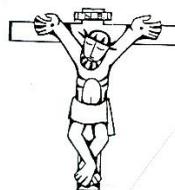


四旬節第6主日

2025年4月13日

風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。 フィリピ2:11
そして、「オリーブ畑」と呼ばれる山のふもとにあるベトファゲとベタニアに近づいたとき、二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、引いて来なさい。もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」使いに出された者たちが出かけて行くと、言われたとおりであった。ろばの子をほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。二人は、「主がお入り用なのです」と言った。

ルカによる福音書19：29－34

【説教要旨】「神の言葉の反復」

イエスさまが十字架にお架かりになるエルサレムに入城されたときの物語です。棕櫚主日が今日です。棕櫚の葉でできた十字架を配り、翌年の灰の水曜日に持ってきて灰とし、灰の水曜日の礼拝に用いられる伝統があります。

二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、引いて来なさい。もし、だれかが、『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」使いに出さ

れた者たちが出かけて行くと、言われたとおりであった。ろばの子をほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。二人は、「主がお入り用なのです」と言った。

本当にそんなことが起きるのかということですが。イエスさまに「主がお入り用なのです」と言えば良いと言われたように、「主がお入り用なのです」といえば、子ろばの綱をとくことが許されたというのである。そんなことが起きたのですかという疑問が私には、起きてきます。

精神薄弱児施設創設に奔走されていたU牧師と高校生の時に出会いました。私たちは夏休みを返上して、教会の裏の木を伐り、木の根株を抜く悪戦苦闘をし、がっかりしていた私たちのところにU牧師が来て、「主がお入り用ならきつと出来ますよ。主が必要とされないなら出来ません」と言われたことを今でも覚えて、これを私の生き方としています。

「『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」と言うイエスさまのお言葉通り話したということは、イエスさまへの弟子たちの信頼が、「ろばの子をほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。二人は、「主がお入り用なのです」と言った。」という弟子の主の言葉の繰り返しとなったのです。この物語はみ言葉への信頼とは何かということを私たちに教えてくれているのです。

「『なぜほどくのか』と尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」とイエスさまが言われたとき、まだ、はっきりとろばが飼い主から綱が解かれると目に見える確証はありません。むしろ、イエスさまが、ろばに対する金を弟子に渡し「ろばを買ってきなさい」といわれるなら私たちにとって、手ごたえを感じ、確信を持てます。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることな固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分

になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」力に頼らず自分を無としたメシアの姿があります。これでは、私たちに手ごたえも、確証も与えてくれない。しかし、ここに、「すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」という出来事がおこるのです。「主がお入り用なのです」という出来事が起こり、主・イエスさまは働き、私たちが「『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」と讃えずにはおれないようになります。弟子は、どんな確証よりも、神の言葉に信頼したのです。「主がお入り用なのです」という自分を圧倒する出来事が起こるのです。神の言葉を信じること、人の思いを越える神の出来事に私たちを出合わせます。

ルターは、金と財・・・、同様にすぐれた技能、権勢、恩顧、知遇、名誉もっていることを頼みとして、これを誇っている人は一つの神をもつことであるが、真実ではないと言います。真実に神をもつものは、徹頭徹尾、神によりかかるということであり、神を信頼することに他ならないと言います。確かなもの、金、財、技能、権勢、恩顧、知遇、名誉に依りかかるエゴの塊の現代世界にあって、私たちは「『イエス・キリストは主である』と宣べ伝えていくのです。わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えていきます。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えていくのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。」Ⅰコリント1:23～25と繰り返し伝えていくことが現代世界に風穴をあけます。

牧師室の小窓からのぞいてみると



世界は、トランプ大統領の「相互関税」政策を、フィッシャー・インベストメンツの創業者兼会長のケン・フィッシャー氏はXで次のように語った。「トランプ氏が（先週）2日に発表した内容は愚かで、間違っていて、傲慢（ごうまん）なほど極端だ。貿易に関して無知であり、問題ではないことに見当違いの方法で対処している。しかし、私の見立てでは、それは次第に弱まり失敗するだろうし、恐怖のほうが問題よりも大きい。ここからみれば強気材料だ」 フィッシャー氏は、大統領の行動について通常は公にコメントすることはないとしながらも、「関税についてトランプ氏はまったく常軌を逸している」と述べた。

これから世界はどうなるかを暗示している。ビル・アックマン氏は「経済的な核戦争」を始めるのに等しいと言っている。まさに、私たちは「経済的な核戦争」中に突入するかどうかというところに立たされている。とYahoo!ニュースは伝えている。そして、影響の大きさに90日の延期を決めた。面子だけが残った。

獣が登場した。一匹は、「この獣にはまた、大言と冒涇の言葉を吐く口が与えられ、」、もう一匹は「獣の像を拝もうとしない者があれば、皆殺しにされた」（ヨハネ黙示録 13 章）・・・

そして、こう告げる。「ここに、聖なる者たちの忍耐と信仰が必要である。」。今は、この時である。



園長・瞑想？迷走記

新学期、少子化さえ吹き飛んでしまう経済大混乱が起きようとしている社会が生まれようとしている時、どう幼稚園を舵取りしようかと考えると、皆目、予想も出来ない。この時だから落ち着いて、子どもを中心において保育、教育と取り組んでこそではないかと覚悟するのも園長。

日毎の糧

恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

詩篇 118 : 1



ルターの言葉から

私たちの心が試練の中でどんな状態にあるかは、このように示される。私たちの心が感じているように、そのように、そのようにここではキリストもご自身をあらさされるのである。そこにはただ否定だけがあるとしか、心で思えないとき、そういうときさえ、それは真実ではない。それだから、心はこのような感情には背を向けて、否定の上や下にある深いひそかな肯定を、神の言葉への固い信仰によって掴み、しっかりと保ち続けなければならない。

「四旬節説教集」 『ルターの言葉』 W.シュバルン 湯川郁子訳 教文館

奇蹟

北森嘉蔵牧師はこの詩編の「家を建てる者の退けた石が、隅の親石となった。これは主のみ業、わたしたちの目には驚くべきこと。」ということに注目します。

「偽りの愛をどうやってわたしたちは克服するかという方は人間の中にはないからです。……………それを解決するのは、新約聖書で言えばイエス・キリストの福音と呼ばれる真理なのだけれども、その福音というものは手っ取り早く役にたつようなものと思えない、大工さんたちはほったらかしているわけです。そしてせつせと壁塗りや、屋根葺きをやっている。という奇妙な姿を呈しているとことなるのです。そして23節には、『これは主のみ業、わたしたちの目には驚くべきこと』あります。驚くべきことというのは奇蹟ということでしょう。家造りらがほったらかしている石が世界の根底を、建物の根底を支えるということは驚くべき事なのです。」
(詩篇講話下 北森嘉蔵 教文館)

祈り：主よ、あなたの奇蹟があります。試練にあっても慈しみはとこしえにあり、恵み深い主に感謝できる者と教えてください。

甘木通信

一人一人の気持ちで支えられる

「百寺巡礼」（五木寛之著）という本の中に薬師寺の話があった。東塔を残し創建当時の金堂、講堂、西塔が消失していた。この大伽藍再建を発起したのが高田後胤師であった。私の好きな坊さんで、こういう人になればと思った。最初に再建した金堂を手掛けたのが宮大工・西岡常吉さんで私の好きな宮大工である。



大伽藍再建には膨大な資金が必要であった。彼ほどの知名人なら大きなスポンサーを得ることができたかもしれない。もともと法相宗の本山である薬師寺には檀家がすくない、檀家による寄付ということはならなかった。

そこで考えたのは、「写経勸進」ということであった。

「百万巻」という目標を立てた。人々は無理だと笑った。しかし、この運動は広がり七百万巻に達したという。このお布施により金堂が再建され、講堂、西塔と再建され、建立当時の薬師寺が今日ある。

五木氏は、「本来の宗教の姿は少数の豊かな層に支えられて栄えたものではない、大勢の民草一人ひとりの気持ちで支えられるべきものだろう」と言っている。

これから甘木聖和幼稚園の未来について検討していく。教会にはそれほどの力がないと思われているかもしれない。しかし、「主がお入り用なのです」という言葉を聞くとききっと小さな信徒一人一人の気持ちで支えられ未来、夢は実現されていくものと思っている。

(**甘木日記**)土) 日善幼稚園の保育室の壁塗り最終日。運転手さんらに感謝。日) 甘木教会の役員会。礼拝は式文が見えなくなり、目の衰えを感じる。謙虚に伝えたい福音を宣教するために説教が長くなる。月) 日善幼稚園の始園式。新しい一步。生活環境が変わった園児としばらくは付き合う。火) 体調も回復かと思ったが。木曜日、金曜日とどどと疲れが出る。老いとは。水) 前運営委員長の社葬に出席。同級生のk牧師は九州学院院長を退職したと聞く。木) 初めての保育園の礼拝担当、午後から甘木聖和幼稚園の解放日が雷で出来ない。すべてに時があり金) 日善幼稚園の入園式。最後まで発達特質の園児が出席できるように努力。記念写真はみんなで撮れる。感謝。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) 教室の壁塗りの後、後片付けを手伝っていただき、また家内も参加し、予定より出来なかったが無事終了。流石、甘木にいく体力はなく、明日にすることにした。体力の衰えは日々感じる。これが老いで、向かいあっていくことなのだろう。日) 礼拝の式文が見えなくなったのと脳の退化を感じつつ、司式をする。説教も長くなった。これも老い。礼拝後、役員会。主任はzoom参加。久留米に車で送っていただく。今後の休園中の甘木幼稚園の将来について主任牧師と話す。月) 始園式、2025年度幼稚園が始まった。新牧師も加わり、礼拝、始園式を執り行っていただく。東京から九州と慣れないところで大変だろう。今、キリスト教保育、教育ということに向かい合っていけばいくほどキリスト教というのがなくなっていく。保育、教育に真剣に向かい合ってこそキリスト教保育、教育かと思う。火) 少し体調も回復し、油ポイ物が食べたくなった。春の良い天気、

窓から花散る桜
スが巣作りを向
める。これも春
じる。水) 故木
さん、素直さん
幼稚園運営委長
て下さる。親子
謝。木) 今日か



が見える。カラ
かいの軒先で始
だが、危険を感
下勇さんの息子
の社葬に出席。
をあるじき務め
二代である。感
ら松崎保育園の
礼拝担当となる。保育園と幼稚園の違いはどこにあり、どうみ言葉を伝え行けばよいか祈り考える。行儀の良い年中さん、年長さんには驚く。我が園では多国籍の子ども、発達特質の子どもが多く、いつも席を立つ子どもをおっかけている。受苦日とイースターを考えるために「宿題、紫の布を使う時はいつかな。来週まで宿題」というt「宿題、嫌い。」子供らしい反応。私の尊敬するロイド・ネービ夫妻が開いた保育園。まさかそこをおてつだいするなんて想像もしていなかった。午後、甘木へ移動。甘木聖和幼稚園開放日の予定だったが大雨、雷。家内は雷が好きで楽しんでいる。第1回はこれで終わり。午後からどっと疲れが出て牧師控室で休憩。こういうことが多くなった。金) 日善幼稚園入園式、最後までみんなが参加できるように努力はしたが、こちらの思うようにいかない。忍耐。